

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	家 庭	科 目	家庭総合	学 年	2	類 型	商業科
単位数	2	教科書	高等学校 新版 家庭総合 ともに生きる・持続可能な未来をつくる		出版社	第一学習社	
副教材	・家庭科ノート						

学習の目標	1. 人の一生を生涯発達の見点で総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解します。 2. 生活課題を解決するために必要な知識と技術を得得し、家庭生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身につけます。
授業の概要	人の一生と家族・家庭、子どもと高齢者とのかわりや福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てます。また、学習内容に応じて一斉指導、個別指導、グループ指導を行い、視聴覚教材も多く活用します。

	学期	単元	教材	学習内容	評価の観点			
					①	②	③	④
年間	1学期	1章 これからの生き方と家族 第1節 青年期を生きる	1自分らしい人生とは 2青年期の課題	・心や知性などの精神面において、人間は生涯をとらえて発達していく存在であり、ライフステージごとに発達課題があることを理解する。 ・青年期は、自分の存在や生き方を考え、アイデンティティを確立する時期であることを認識し、自立について知る。	◎	○		
		7章 装う 第2節 被服の製作 第1節 人の一生と被服	被服製作実習	・被服製作に必要な基礎的な知識・技術を身につける。	○		◎	
		第3節 被服材料と管理	1人と被服 2日本の衣文化 3多様な被服 4被服の選び方 5被服の着方	・被服のもつ保健衛生的な機能や社会的・文化的な機能を生かし、望ましい着装について考える。 ・被服は、気候・風土によって異なる一方、人生という長い時間軸で見ると、ライフステージによっても違ってくることを理解する。 ・被服を購入する際には、品質表示をもとに取り扱い表示やサイズ、着心地、動きやすさ、縫製の善し悪しなどを調べることの重要性を理解する。	◎			○
		5章 経済生活を営む 第3節持続可能な社会をめざして	1消費生活と環境問題 2私たちに何ができるのか	・持続可能な社会の実現のためには、私たち自身が環境に負荷を与えないように工夫していく必要性を理解する。 ・環境負荷の少ない生活をめざして、生活意識や生活様式を見直し、周囲と協力しながら実践する姿勢を身につける。	◎	○		
		ホームプロジェクト		・ホームプロジェクトの課題をみつめて、夏休みに調査・研究を行う。 ・2学期最初の授業で研究発表会を実施する。	○	◎		
	2学期	8章 住まう 第2節住生活の計画と選択	1快適で健康な住まい 2住まいの安心・安全	・住環境が、健康な生活に大きな影響を与えることを理解し、衛生的な室内環境を整備するためには、どのような工夫が必要か考える。 ・地震などの自然災害や火災などの人的災害、家庭内事故の原因について知り、日頃からの安全対策について考える。	○	◎		
		第1節人の一生と住まい	4ライフステージと住まい 3平面図の活用	・人生における各ライフステージに必要なとされる居住条件やユニバーサルデザインを研究し、住まいの中で工夫・改善していく方法を考える。 ・住んでいる人の暮らしを平面図から読みとり、望ましい間取りを考えることのできる能力を養う。	○	◎		
		3章 充実した生涯へ 第1節高齢者を支える 第2節高齢社会を支えあう	1高齢者をどう支えるか 2高齢期の生きがいと就労・社会参加 3高齢者を知る 1高齢社会の現状と課題 2高齢者やその家族の支援システム 3高齢者の尊厳を支える	・元気に活躍する高齢者について具体的な事例を取り上げ、エイジフリー社会について考える。 ・加齢にともなう身体機能の変化について高齢者体験などをおして理解を深め、身体的自立を援助することについて考える。 ・日本の高齢化の現状について理解するとともに、高齢者世帯の生活費や公的年金制度、経済的な支援、介護保険制度や介護サービスの状況について学ぶ。 ・高齢者の自立を支援するうえでコミュニケーションの大切さを認識し、日常生活動作の実習から、介助の基本的な知識と技術を身につける。	○	◎		○
		5章 経済生活を営む 第1節私たちの暮らしと経済	1経済生活の中身を知る 2家庭生活と社会とのかわりを知る 3将来の経済生活を考える	・家庭の生活を支える収入と支出の運営など、家計の管理について理解する。 ・家族のリスクへの対策も考慮すると、短期・長期の両面からの経済計画が必要であることを理解する。	◎		○	
		4章 ともに生きる	1社会保障制度と福祉 2ともに生きる社会をめざし	・社会保障制度の必要性とそのしくみについて認識し、それぞれの範囲について理解する。	◎			○
学習計画	3学期	5章 経済生活を営む 第2節消費者問題を考える	1消費者問題はなぜ起こるのか 2契約トラブルとその対策 3クレジットの利用のリスク 4消費者の自立と行政の支援	・消費者として適切な意思決定のもとに権利を行使し、責任ある消費行動を取っていくという態度を養う。 ・販売方法、支払い方法、消費者信用について学び、利用に際しては、慎重におこなう意識と対応策を身につける。 ・消費者関連のさまざまな法律が制定され、国や各都道府県の機関が設置されていることを理解する。			◎	○
		1章 これからの生き方と家族 第2節 家族・家庭と社会とのかわり	3これからの生活をつくる	・結婚をするかどうかは、本人の自由な意思に任されていることを理解したうえで、配偶者をもつことはどういうことかについても目を向ける。 ・このまま少子化が進むと何が起こるのかに気づき、次世代をはぐくむ必要と多様な手段について考える。	◎		○	

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
・人の一生、家族・家庭、子どもと高齢者の生活、それらと社会との関わり、衣食住について関心をもち、その充実・向上をめざして意欲的にとりくむとともに、実践的な態度を身につけようとする。	・自分や家族・家庭、地域の生活にかかわる課題を見つけ、課題解決のため思考を深めて、工夫したり創造したりし、自分の考えをまとめ、判断できる。また、課題解決の学習から導き出した考えを的確に表現することができる。	・自分・家庭や地域社会の生活に関する課題を解決するため、必要な基礎的・基本的な技術を身につけることができる。	・自分や家族・家庭、地域社会の役割を理解し、それらの充実向上にむけて必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。衣食住、消費・環境など、家庭生活を営む上で必要な知識を身につけている。
評価の方法			
(検査点)①学習項目について、理解できているかを中心に評価します。			
(平常点)②授業中における関心・意欲・態度・思考・判断・表現・技術・知識・理解について総合的に評価します。			